

一、次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

「還元主義に基づく医療モデルは、心あるいは身体に存在する問題が解消されれば、症状としての拒食や過食は解消されると措定する。つまり還元主義は身体と心が正常であれば、人間はふつうに食べることができると措定しているのである。しかし私たちがふつうに食べられるのは、そのための機能が生まれながらに身体に備わっているからなのだろうか。生まれたばかりの赤ん坊がふつうに食べられるようになったていくのは、身体に埋め込まれた食の本能が徐々に開花してゆくからなのだろうか。

食の文化人類学のパイオニアであるオードリ・リチャーズは、どこにも異常がなければふつうに食べられるという還元主義の前提に、真つ向か対立する見解を残している。しかしリチャーズは、食を人間の本能と仮定するのであれば、それを生かすための赤ん坊が乳を吸う行為に限定するか、食に関わることすべてを本能としなければならぬと主張しているからである。食と性は人間の本能としてまずあげられる代表的な行動であろう。a、そのうちのひとつをほぼ否定するかのようなりチャーズの仮説はかなり大胆と言えるが、私たちがふつうに食べられるまでのプロセスを検討すると、リチャーズの仮説はあながち的外れではないことが見えてくる。

食は、慣習行動のひとつである。

「1」 慣習行動とは、何をどうしたらよいか、いちいち考えなくともなめらかにそれができる行動のことを指し、食の他にも、歯磨きや電車の乗車など、私たちの日常は慣習行動であふれている。慣習行動は私たちにとってあまりにも簡単であるゆえ、なぜそれができるかなど考えることはまずないが、少し立ち止まり、なぜ私たちがこれらを当たり前に行えるかを検討すると、それには込み入った議論が必要となる。

「2」 まず慣習行動は、膨大な知識に支えられている。b 電車に乗る場合、路線、ウンチン、時刻表についての知識だけでなく、電車とは公共の乗り物であること、それに乗れば目的地の近くまで連れて行ってくれることを知らなければならぬ。またそれだけでなく、時間によっては大変混み合っており、見知らぬ人と身体が触れ合うこともあるということも、電車に乗るための前提知識である。このように前提知識なく続けることができ、椅子は空洞ではないので座っても破裂することはないとか、電車のドアが目にも止まらぬ速さで閉まり、身体が挟まれることはないとかいった情報も、電車に乗る上で必要前提知識となる。

「3」 このようなことをいちいちあげるのは大変馬鹿らしいことのように思えるが、上述した前提のうち一つでも「ジメイのこととして捉えられなくなったら、たとえば「電車の扉が高速で閉まり、身体が挟まれて死ぬかもしれない」と考えたら、電車の乗車は慣習行動として成立しない。アメリカの哲学者であるジョン・サールは、慣習行動の成立に必要なことのような知識の一群を「背景」と名付けた。背景は、ふだんは意識の彼岸にあるため、その行為に際して、逐一思い返されることはないが、背景がなければ、その行為は慣習行動として成立しない。慣習行動を支える背景は、地中に埋められた家の土台のように、私たちのありふれた日常を支えているのである。

「4」 まず私たちは、目の前にあるものを脈絡もなく口に入れるわけではない。食べるためにはまず、自分にとつて何が食べ物を見分ける必要がある。

しかし私たちは生まれたときから何が食べ物で、何がそうでないかを知っているわけではなく、この区分は他者から繰り返し教えられることでやつと身につく。海外旅行に行くとき何を食べたらよいかわからなくなるのは、食べ物の選択についての本能が働かなくなったからではなく、食べ物の選択に関する自らの背景と、トコウ先の人々のそれがずれているからである。

c 仮に食べ物の区分に関する知識を持っていたとしても、その入手方法を知らなければ食べることができない。私たちはスーパーでの食べ物の「コウニユウや、レストランでの注文方法など、食べ物の入手に関する細かな知識を獲得しているからこそ食べることができるのであり、それを知らなければ食べるといふ場にすらたどり着くことができないのである。

加えて、食を慣習行動として成立させるためには、食べ物の加工・保存についての知識も必要である。食べ物や食材を一瞥すると、それをどうやって保存あるいは変換するべきかを思いつくことができるが、これは私たちが食べ物の加工・変換についての背景を学習しているからであり、これらの知識が生まれながらに備わっていたからではない。レトルトカレーの封を開け、その中身を熱湯の中に流し込むことはレトルトカレーの食べ方として誤りであるが、私たちがそうできるのは、レトルトカレーをいかに変換したらよいかを知っているからである。

d 食べ物の選択、入手、加工・保存に関する知識をすべてカンペキに備えていたとしてもふつうに食べるにはまだ遠い。食べ方についての背景も獲得していなければ、ふつうに食べることができないからである。たとえば誰も味噌汁をピーカーに入れようとは思わないだろうし、カレーをフオークですくって食べようとは思わないであろう。しかし私たちがなぜそのような味噌汁やカレーを食べないのかというとき、それは私たちがこれら料理についての適切な食べ方を背景として身につけているからである。

食べ方についての規則は複雑で、ご飯には茶碗と箸、パスタにはフォークとスプーンというように、それぞれの料理にはそれに相応する道具があり、味噌汁はお椀を持ち上げて口をつけて吸い込む、パスタは数本のパスタをフォークに絡め、スプーンをその下部に寄せて落ちないようにして食べるというように、それぞれの料理にもそれに対応した食べ方がある。料理と道具の組み合わせ、料理と食べ方の組み合わせを逐一あげれば大変な量になることは想像にたやすいが、私たちはこれらすべてを背景として獲得しているからこそ、ふつうに食べることができるのであり、もしそれがなければ私たちは食べ物を目の前に戸惑ってしまい、ふつうに食べることができなくなる。

ここまでの議論で、私たちの何気ない食が実は膨大な知識に支えられていることは明らかであるが、慣習行動としての食をこれで説明し尽くしたわけではない。なぜなら食の背景は状況。インソ性が高く、状況に応じて変化する食の背景に対応できなければ、ふつうに食べることができないからである。

(磯野真穂「なぜふつうに食べられないのか」による)

問一。—— 1と8の漢字に読みがなを、カタカナには漢字を書きなさい。

問二。—— a) に当てはまる語句として最も適当なものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア さらに イ むしろ ウ きつと エ たとえば
オ ところで カ しかし キ つまり ク したがって

問三。次の一文を本文中の【1】と【4】に補うとき、最も適当な箇所を選び、数字で答えなさい。
「それでは私たちの食にはどのような背景が存在するだろうか。」

問四。—— A「還元主義に基づく医療モデル」とあるが、この立場は「食」に対してどのような主張を行っているか。その説明として最も適当なものを次の選択肢から選び、記号で答えなさい。
ア 身体と心の状態が正常ならば、拒食や過食の症状を解消できるはずだ。
イ 心の状態に関わりなく、食事をすることで身体の健康を維持できる。
ウ 人間が食欲を抱くのは、心の作用ではなく本能によるものである。
エ 赤ん坊は生まれながらにして身体の機能として食の本能を持っている。

問五。—— B「慣習行動」とあるが、筆者が「慣習行動」と反対の意味で用いている言葉を本文から漢字二字で探し、書き抜きなさい。

問六。—— C「背景は、ふだんは意識の彼岸にある」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「背景」は意識の一部を占め、日常生活のふるまいを統括しているということ。
イ 「背景」は常日頃から問い直され、意識的に確かめられているということ。
ウ 「背景」は日常生活の中であえて意識されることはないということ。
エ 「背景」はさまざまな日常の行動を妨げるものだということ。

問七。—— D「自分にとって何が食べ物かを見分ける必要がある」とあるが、「見分ける」力はどういうように身に付けられるのか。その説明をした次の文の空所に入れる十五字の部分を、本文から抜き出して答えなさい。

食べられるか食べられないかは 十五字 によって身に付けられる。

問八。—— E「適切な食べ方」とあるが、どのような「食べ方」が「適切」なのか。本文の内容に即した説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 毎日の食事を規則正しくとり、間食しないように心懸けること。
イ 料理に合わせた食器を用い、それらを正しく使って食べることに。
ウ 温かいものが冷めないように、保温性の高い物を用意しておくこと。
エ 栄養が偏らないように、三食の栄養分を気にして食べることに。

問九。—— F「ふつうに食べること」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 食べられる物のなかで好き嫌いをなくし、すべての食べ物を感謝しながら食べられるようになるということ。
イ 病気の治療などによる食事制限なしに、好きなものを好きなだけ食べられる生活が送れているということ。
ウ 食べられる物の区別や食べ方を身につけた上で、それらを意識せずに食べる習慣が身につけているということ。
エ 食べ物に応じた道具や食事の仕草をひとつひとつ意識して行い、食べることを粗末にしないようにすること。

二、次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

半年前に祖父が他界したとき、携帯の留守電に声が残っていないか慌てて確認した。葬儀より前の取り込み中のことだっと思う。自動的に削除されていくデータが相手だから妙に焦ったのだ。家の固定電話の方も、録音内容を順に再生して探した。別に辞世の句を吹き込んでくれる予定だったわけではない。仮に残っていたとしても、「焼き肉のたれを買ってきてくれるか」（近所に一人で暮らし、自炊もしていた祖父の好物は肉類）とか「うらめしや」（電話をくれたときにこちらが全員出払っていた場合）といったメッセージジなのだが、この際内容は何でもよかった。故人の肉声は正確には覚えていられない。身近な人をなくすたびそのもどかしさを経験するから、遅ればせながらも、手を打とうとしたのだ。奔放に九十四まで生きた祖父と比べると、三十年近くも前、私が小学四年の時に亡くなった祖母との関わりは短かった。一点の曇りもなく愛してもらった印象は未だにはっきりしているのだが、どんな声だったか、となると曖昧にしか覚えていない。写真のように参照できる手がかりもない。

ただ、声は忘れても、言葉の様子は記憶から消えないようだ。代々京都で暮らす家に生まれた祖母は、²オーソドックスな京言葉を使う人だった。懐かしさのせいだろう、今も近所の高齢の女性と話すとき、内容よりその響きに気を取られたりする。「見とおみ」「あかんえ」と呼びかけるその語尾にはどこか、自分の口にした言葉を世界へ溶かすような、淡々とした柔らかさがある気がする。

こんなふうには自分が生まれ育った土地の伝統的な言葉を臆面もなく称賛できるのは、それと自分との間に断絶があるからだ。私が使っているのは漠然とした関西弁であって京言葉ではない。もともと¹方言の稀釈はどこでも起こっている現象だろう。年配の人たち以外からは聞く機会自体が少ない。同世代の友人との会話に現れたら途端に異物めいてしまう。子どもの時分であればからかいの対象にすらなる。あの頃に^a、上品ぶっているときとみなされそうなのや、³羨ましい響きへの抵抗感が根付いた。祖母は祖母で旧式のものも嫌いで、それなりに価値のある古道具も躊躇なく捨てていたらしいから、意図して昔ながらの話ぶりを保存していたわけではなさそうだ。

伝統的な言葉といっても長い歴史を通して同じ姿をとどめ続けるはずはない。今日知られている京言葉の多くも江戸後期あるいは幕末から明治にかけてのものらしい。個を超えた長いスパンで見ればそれらの変形や消滅は自然な流れだ。ただ、個人の時間感覚を基準にすると、たった数十年の間にこんなにも消してしまつてよかつたのかという不穏さもある。自覚しているよりはるかに大きなものを消し続けているのかもしれない。故人の声を少しづつ忘れていくとき、それでももし自分がその喋り方を

^b継承していれば、普段の暮らしの中でもその人との結びつきが脈々と続いたのではないか。改めて実践を試みたとしてもおそらく、私が疎外した言葉は私を疎外する。そう思っていた。しかし最近唐突に気づいた。飼猫の前足をうっかり踏んだときやペットフードの缶詰を開けるとき、猫相手にだけは反射的に「かんにんえ」「こつちおかない」等と言っているのだ。既に、どうしてなのだろう？ 言葉というものから自由な動物といるときは、こちらも油断して、普段の言葉の域から踏み外しやすいのだろうか。喋り慣れた範囲の外側に広がる、懐かしいが自分のものではない大量の言葉の影。自分で自分の言葉遣いを取捨選択する以前に浸っていた、周りの人々の声の海。無言の動物といるときそれは一瞬私に満ちるのだろうか。ずいぶん時を経てからふと鏡に映るみたいに。

せつかくだが猫しか証人がいない。そして猫の方は方言どころか外国語で謝られたり呼ばれたりして、「攻撃だったのか偶然の事故だったのか」「こはんをくれる気があるかどうか」を^c聞き分けると思うので何の影響もない。でも口にしていない間は、猫だけでなく自分自身も聞ける。消さずにいることも可能だったのに自分の手で消してきた言語や、忘れてしまった故人の声の残響に、耳を傾けることができる。

さて祖父の声は残念ながら私の携帯にも家の固定電話にもとどまっていなかった。しかしいくら内容は問題じゃないと言ってもやはり「うらめしや」という留守録メッセージを聴きながら慄ぶのは厳しい。ちなみに留守宅へ電話をしてもやがて「うらめしや」という留守録メッセージを聴きながら慄ぶのは厳しい。来訪したときは一筆したためるのを忘れなかった。ほぼ奔放で所々神経質で全体的に過剰な祖父は、湯が満杯状態でない電気ポットを「爆発寸前」と表現したものだが、つい先日、何年も前の過剰な置手紙が^d出てきた。「ポットから白煙が上がっていたぞ。水を足しておく」。どことなく、捨て鉢な筆跡を見たらずもセツトになって、^e唖ってききたので、^fとりあえずこれで満足しようと思う。

(牧田真有子「声を忘れるとき、言葉を消すとき」による)

問一 1、3の語句の意味の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- 1 手を打(つ)
- ア 手をたたく
- イ 話をまとめる
- ウ 必要な処置をする
- エ 対応に納得する

- 2 オーソドックスな
- ア 正統的な
- イ 伝統的な
- ウ 平均的な
- エ 一般的な

ア 無理矢理
イ 自暴自棄
ウ 唯我独尊
エ 我田引水

問二・ a } d に当てはまる語句として最も適当なものを次の選択肢からそれぞれ選び、記号で答えなさい。
ア きつちり イ そつくり ウ ひよっこり エ さっぱり オ すつかり

問三・ — A 「身近な人をなくすたびそのもどかしさを経験する」とあるが、どのようなことに「もどかしさ」を経験するのか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 亡くなった人とは再び会話ができないこと。
イ 亡くなった人の録音が簡単には見つからないこと。
ウ 亡くなった人と会話した内容を思い出せないこと。
エ 亡くなった人の肉声を正確に思い出せないこと。

問四・ — B 「方言の稀釈」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 親世代にとっては子ども世代の言語が理解できないということ。
イ 特定の地域だけの話しぶりが世代を経るにつれて失われていくこと。
ウ 方言は子どもから大人になるにつれて使われなくなっていくこと。
エ 関西弁を話す人数が減少し、京言葉を話す人数が増えているということ。

問五・ — C 「私が疎外した言葉は私を疎外する」とあるが、ここには筆者のどのような心情が表されているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 祖母が使っていた京言葉に抵抗を感じて受け継がなかったことを悔いる気持ち。
イ 旧式の京言葉を惜しげもなく捨ててしまった祖母に対する残念な気持ち。
ウ 京言葉のように長い歴史の中で失われていく方言を惜しむ気持ち。
エ 祖母とともに失われた京言葉を今さら使うことはできないというあきらめの気持ち。

問六・ — D 「周りの人々の声の海」とあるが、これはどのような状況をたとえた表現か。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 方言に関する書物が人々の日常にはあふれているということ。
イ 周りの人々が話す方言が一方的に耳に入ってくるということ。
ウ 人々は日常生活の騒音から逃れることはできないということ。
エ 自分が意識的に選んだ言葉だけを使う環境にいるということ。

問七・ — E 「とりあえずこれで満足しようと思う」とあるが、このように筆者が感じたのなぜか。その理由説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 祖父の声は見つからなかったものの、声の調子は記憶に残っていたから。
イ 恨み言の声を見つけないよりも、祖父の手柄を思い出す方が大切だと思ったから。
ウ 祖父の神経質で過剰な性格のなかにも、家族を大事にしていたことが分かったから。
エ 祖父のメモが見つかり、声を想起できるような筆跡が認められたから。

以下の問題は4択問題です(6のみ三択)。解答は番号を書くこと。

1. $x + y = 1, x^3 + y^3 = 3$ のとき $x^2 + y^2$ の値を求めなさい。

- (1) $\frac{3}{7}$ (2) $-\frac{3}{7}$ (3) $\frac{7}{3}$ (4) $-\frac{7}{3}$

2. $x^2 + xy + 4x - 2y^2 + 5y + 3$ を因数分解しなさい。

- (1) $(x + 2y + 1)(x - y + 3)$ (2) $(x + 2y - 1)(x - y - 3)$
 (3) $(x - 2y + 1)(x + y + 3)$ (4) $(x - 2y - 1)(x + y - 3)$

3. 次の方程式・不等式を解きなさい。

(i) $x^4 - 5x^2 + 4 = 0$

- (1) $x = 1, 4$ (2) $x = \pm 1, \pm 2$ (3) $x = 1, 2$ (4) $x = -1, -2$

(ii) $2x - 3 > 3x + 1$

- (1) $x > 4$ (2) $x < 4$ (3) $x > -4$ (4) $x < -4$

4. 次の連立2次不等式を解きなさい。

$$\begin{cases} x^2 - 2x - 3 > 0 \\ x^2 - 4 \leq 0 \end{cases}$$

- (1) $1 \leq x < 2$ (2) $-2 \leq x < 2$ (3) $-2 \leq x < 1$ (4) $-2 \leq x < -1$

5. 2次方程式 $x^2 + 2ax + a = 0$ が2つの相異なる実数解をもち、それらが -1 と 1 の間にあるような a の値の範囲を求めなさい。

- (1) $-\frac{1}{2} < a \leq 0$ (2) $-\frac{1}{3} < a \leq 0$ (3) $-\frac{1}{2} < a < 0$ (4) $-\frac{1}{3} < a < 0$

6. x, y は実数とする。次の()の中に必要、十分、必要十分のうち最も適するものを入れなさい。

(i) $x^2 > 16$ は $x > 6$ であるための()条件である。

- (1) 必要 (2) 十分 (3) 必要十分

(ii) $x^2 + y^2 = 1$ は「 $x \leq 1$ かつ $y \leq 1$ 」であるための()条件である。

- (1) 必要 (2) 十分 (3) 必要十分

7. $0 \leq x \leq 180^\circ$ のとき、 $f(x) = 2 \cos^2 x - \sqrt{3} \sin x + 1$ について次の問に答えなさい。

(i) $f(x) \leq 0$ をみたす $\sin x$ のとりうる値の範囲を求めなさい。

(1) $-\frac{\sqrt{3}}{2} \leq \sin x \leq 1$ (2) $\frac{\sqrt{3}}{2} \leq \sin x \leq 1$

(3) $\frac{1}{2} \leq \sin x \leq \frac{\sqrt{3}}{2}$ (4) $-\frac{1}{2} \leq \sin x \leq \frac{\sqrt{3}}{2}$

(ii) $f(x)$ の最大値、最小値、またそのときの x の値をそれぞれ求めなさい。

(1) $x = 0^\circ, 180^\circ$ のとき最大値 3, $x = 90^\circ$ のとき最小値 $1 - \sqrt{3}$

(2) $x = 0^\circ, 180^\circ$ のとき最大値 2, $x = 90^\circ$ のとき最小値 $1 - \sqrt{3}$

(3) $x = 0^\circ, 180^\circ$ のとき最大値 3, $x = 90^\circ$ のとき最小値 $2 - \sqrt{3}$

(4) $x = 0^\circ, 180^\circ$ のとき最大値 3, $x = 90^\circ$ のとき最小値 $-1 - \sqrt{3}$

8. $\sin \theta = \frac{3}{4}$ ($0 < \theta < 90^\circ$) のとき、 $\cos \theta$, $\tan \theta$ の値をそれぞれ求めなさい。

(1) $\cos \theta = -\frac{\sqrt{7}}{4}$, $\tan \theta = -\frac{3}{\sqrt{7}}$ (2) $\cos \theta = -\frac{\sqrt{7}}{4}$, $\tan \theta = \frac{3}{\sqrt{7}}$

(3) $\cos \theta = \frac{\sqrt{7}}{4}$, $\tan \theta = \frac{3}{\sqrt{7}}$ (4) $\cos \theta = \frac{\sqrt{7}}{4}$, $\tan \theta = -\frac{3}{\sqrt{7}}$

9. 次の等式をみたす三角形 ABC の形状を求めなさい。

$$2 \cos A = \frac{\sin C}{\sin B}$$

(1) $AB = CA$ の二等辺三角形 (2) $AB = BC$ の二等辺三角形

(3) $BC = CA$ の二等辺三角形 (4) $BC = CA$, $\angle C = 90^\circ$ の直角二等辺三角形

令和3年度 田北看護専門学校入学試験問題 英語

I. A 次の各組の単語のうち、最も強く読む部分の位置が他と異なるものが1つあります。
その単語の記号を解答欄に記入しなさい。

- | | | | | | | | |
|------|------------------------|---|----------------------------|---|-------------------------|---|-----------------------|
| 1. ア | dam-age
1 2 | イ | e-quil
1 2 | ウ | gui-tar
1 2 | エ | ol-ive
1 2 |
| 2. ア | pi-o-neer
1 2 3 | イ | vol-ley-bal
1 2 3 | ウ | or-ches-tra
1 2 3 | エ | cal-en-dar
1 2 3 |
| 3. ア | re-port
1 2 | イ | pa-rade
1 2 | ウ | ad-vice
1 2 | エ | vol-ume
1 2 |
| 4. ア | vol-un-teer
1 2 3 | イ | ham-burg-er
1 2 3 | ウ | en-gi-neer
1 2 3 | エ | mag-a-zine
1 2 3 |
| 5. ア | ac-ces-sory
1 2 3 4 | イ | pho-tog-ra-pher
1 2 3 4 | ウ | es-ca-la-tor
1 2 3 4 | エ | va-ri-e-ty
1 2 3 4 |

B 次の各組の単語のうち、下線部の発音が他と異なるものが1つあります。
その単語の記号を解答欄に記入しなさい。

- | | | | | | | | |
|------|-----------------|---|---------------|---|-------------------|---|----------------|
| 1. ア | wo <u>o</u> l | イ | fo <u>o</u> t | ウ | blo <u>o</u> d | エ | sto <u>o</u> d |
| 2. ア | wei <u>g</u> ht | イ | enough | ウ | sigh <u>t</u> | エ | ei <u>g</u> ht |
| 3. ア | sh <u>a</u> ke | イ | l <u>a</u> dy | ウ | cam <u>e</u> ra | エ | st <u>a</u> ge |
| 4. ア | loo <u>s</u> e | イ | cas <u>e</u> | ウ | inc <u>r</u> ease | エ | new <u>s</u> |
| 5. ア | swe <u>a</u> t | イ | be <u>a</u> t | ウ | se <u>a</u> t | エ | me <u>a</u> l |

II 次の各文中の下線部の語句とほぼ同じ意味になるように 語群より1つ選び、記号で解答欄に記入しなさい。

1. She didn't break the vase on purpose.
2. Improvement is certain if you go forward step by step.
3. Thanks in advance for your tour support.
4. We'll know his intention before long.
5. I told him to come back soon, time after time.

語群

ア	soon	イ	beforehand	ウ	repeatedly
エ	deliberately	オ	gloriously	カ	gradually

III 次の各英文の () に入る最も適切な語 (句) をそれぞれア～エより1つ選び 記号で解答欄に記入しなさい。

1. He has () to Canada. So nobody is home now.
ア went イ gone ウ be エ been
2. There () be a post office here before I moved.
ア ought to イ should ウ used to エ would
3. Bob would () his friends if he said such a silly thing.
ア be laughed at by イ laugh at
ウ be laughed by エ be laughed
4. She wanted to have the television ().
ア to repair イ repairing ウ repair エ repaired
5. He is inferior () me in physics.
ア than イ of ウ to エ as

IV 次の各日本文にあうように[]内の語(句)を並び替え 2番目と5番目にくる語を記号で解答欄に記入しなさい。 文頭にくる語も小文字で記してあります。

1. 私は彼の冗談に笑わずにはいられなかった。。

[ア his イ couldn't ウ laughing エ jokes オ I
カ funny キ help ク at].

2. 友人の悪口を言わない方が良い。

[ア not イ ill ウ you エ your friend オ better
カ speak キ of ク had].

3. こういう訳で私は看護師になることに決めました。

[ア decided イ is ウ a nurse エ this オ to
カ I キ be ク why].

4. この箱は重すぎて 彼女は持ち上げられなかった。

[ア was イ for ウ this box エ lift オ heavy
カ too キ her ク to].

5. 彼が何時に来るか知っていますか。

[ア what イ come ウ do エ you オ time
カ know キ will ク he]?

V 次の対話文の () ①から⑥に入れるのに最も適切な文を、下のア〜クよりそれぞれ ひとつ選び、記号で解答欄に記入しなさい。

- Caller (C) : Hello
- Operator (O) : This is Meiwa Co. Ltd. (①)
- C : May I speak to Ms. Smith, please ?
- O : Sorry, (②) I didn't catch what you said.
(③)
- C : May I speak to Ms. Smith, please ?
- O : Yes, Ms. Smith in the marketing department.
(④)
- C : This is Midori Iwasaki.
- O : OK. Ms. Iwasaki. (⑤)
————— a while later —————
I'm afraid she is in a conference right now.
(⑥)
- C : Yes, please. Would you ask her to call me back
after the meeting? My number is 246-1357
- O : 246-1357. Ms. Iwasaki. I'll pass on your message.
- C : Thank you very much. Good bye.
- O : Good bye.

- | | |
|---|------------------------------------|
| ア | I beg your pardon. |
| イ | Would you like to leave a message? |
| ウ | You have a wrong number. |
| エ | May I help you? |
| オ | Hold the line please. |
| カ | This is a bad line. |
| キ | The line is busy. |
| ク | May I ask who's calling, please? |